

2024 年 12 月 17 日

通貨ニュース

インド: 貿易赤字が過去最大を更新

12 月 16 日、インドの 11 月貿易収支が公表されたが、結果は▲378 億ドルの赤字となり、市場予想の▲230 億ドルを上回る赤字規模を記録した(図表 1)。2023 年 10 月の▲304 億ドルも上回り、過去最大の貿易赤字を更新したかたちだ。輸出の減少、および輸入の急増の双方が収支悪化に寄与したが、特に輸入の急増が目につく。輸入は前年比で+27.0%も膨らんでおり、これは 2022 年 8 月以来の伸び率になっている。

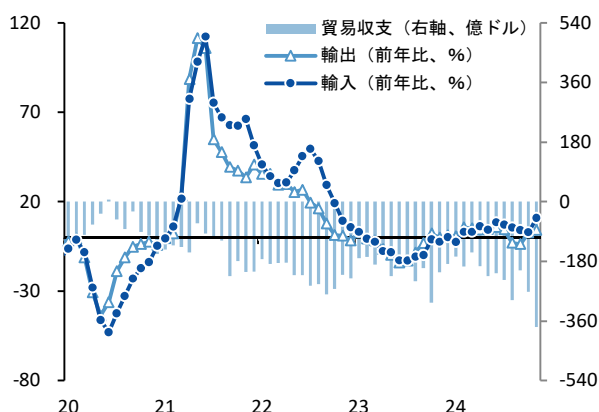
底堅い内需が輸入増に寄与していることは間違いないが、11 月の輸入急増には一時的要因も大きい。それは金輸入で、実際 149 億ドルも輸入している。この数字は、これまで過去最高であった 8 月の 101 億ドルを大幅に上回った。輸入額全体に占める割合を確認しても、21.2%と過去最高を記録した(図表 2)。

7 月に輸入関税が引き下げられて以降(*)、金輸入は予想通り増加傾向にある。ただし、この傾向が永続的に続く訳でもなかろう。とはいっても、短期的にはやはり輸入額増加に寄与する時間帯は続く公算は大きい。結果、巨額の貿易赤字が定着しており、断続的に過去最安値を更新している INR 相場の重しになり続けそうなことは否定しがたい事実である。

(*) 詳細は、2024 年 7 月 24 日発行の通貨ニュース、『インド: 本年度改定予算案公表を受けて～INR 最安値更新の背景～』をご覧ください。

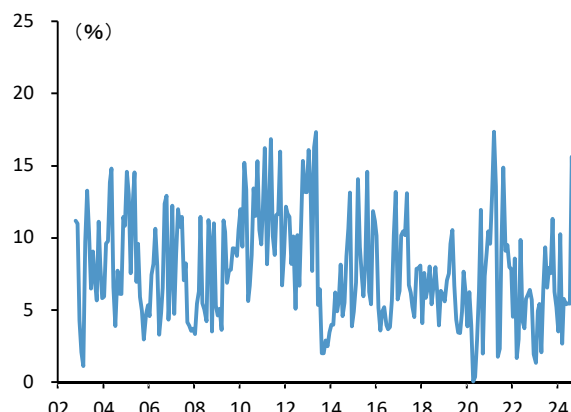
金融市場部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

図表 1: インドの貿易収支(輸出入変化は 3 か月移動平均)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 輸入総額に占める金の割合



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。